

聖学院大学 心理福祉学部主催・聖学院大学総合研究所 心理福祉学研究共催
 2021年度 心理福祉学研究講演会
 「子どもは誰のもの——子どものケアを考える」
 講演：金谷京子（聖学院大学心理福祉学部教授）



講師：金谷京子教授

心理福祉学研究講演会として、2022年2月2日に金谷京子教授（本学心理福祉学部教授）の特別講演がチャペルにて開催され、在学生・卒業生や本学教職員のほか保育関係者、一般市民など、来場・オンラインを合わせて216名の参加があった。

金谷教授は、心理学の立場から障害児教育や子どもの発達支援における教育、研究、実践に長年携わってこられ、その多岐に渡るご経験をもとにした一般市民や学生にもわかりやすい語り口での講演であった。障害のある子どもの教育や支援において、問題となっている行動や症状を消滅させるのではなく、一見問題にみえるような行為に対しても、その子どもの特性に応じたコミュニケーションをとることで、力が発揮され周囲の環境に馴染み、成長を促すことができるという。ともすれば表面化した問題に着目しがちなところに、無限の可能性を見出す専門的な視点が提示された。

また、金谷教授は本学の地域連携・ボランティア支援センターの活動にも長年関与され、多くの学生にとって貴重な体験の機会をもたらしてこられた。特に、東日本大震災後、さいたまスーパーアリーナに避難していた被災者の子どもたちが窮屈な環境におかれていることに着目し、行政への働きかけとともに、遊具を携えボランティアとして遊びの場を提供し、子どもの心の解放を支援するなど、その知見に基づく実践の一端が紹介された。

さらに、大人に求められるのは「愛をもって、子どもの手を放して、目を離さない」ことであると述べ、安全で安心できる環境を用意しつつ子どもの主体性を育む姿が示された。特に「愛をもって」の部分に強調し、講演タイトルである「子どもは誰のもの」という問いに対して、「神さまからの預かりもの」とした珠玉の言葉には、キリスト者である金谷教授の教育と研究と実践を貫く姿勢が強く表わされ、参加者の胸に深く響いた。

少子高齢社会になって久しい現在において、子どもは国や世界の希望の星であり、子どもたちの育成に力を注ぐことは、未来の礎を築くことでもあり、すべての大人が参加すべき尊い行為である。そこで「ワンオペ」に対する危機感に言及され、子どもの教育は親のみの責任に帰するものではなく、地域社会の大人が協働して担うべきであり、また、保護者は援助を要求するべき、と力強いながらも優しさを込めて語りかけられた。

講演後には参加者との質疑応答が活発に交わされ、一人ひとりの子どもをかけがえない存在としてありのままに尊重すること、たとえ障害があっても誰もが生きる権利を有しており、それを育む営みの尊さを実感させられる時間となった。

参加者からは「生きる権利を侵害しないよう、支えて育て、子どもが困難に直面した時に頼られ



会場の様子

る支援者になりたいという思いが強まりました。」
「大人は子どものためにサポートすると同時に、大人も成長していくことが児童虐待の防止につながると考えました。」「いま、地域で子どもの健やかな成長を育み、未来に夢を描ける社会の実現が求められていることが改めて分かりました。」などの感想が寄せられた。

2021年度をもって退任される金谷教授の最終講義として、教え子や同僚の教職員への強いメッセージ性のある講演であった。

(報告者：田村綾子 [たむら・あやこ] 聖学院大学
心理福祉学部心理福祉学科教授、心理福祉学研究会代表)

聖学院大学 心理福祉学部附属 心理相談室 のご紹介

聖学院大学 心理福祉学部附属心理相談室は、子どもから大人まで、地域の皆様からのさまざまなことに関するご相談をお受けしております。

○ 相談は完全予約制です。まずは電話でお申し込みください ○

048-781-0065

【受付時間】	火～金曜日	10時～17時
【相談時間】	火・水・木曜日	10時～18時
【料金】	初回面接(90分)	3,000円
	2回目以降	個人心理療法 1回 3,000円 集団精神療法 1回 2,000円

その他、心理検査・査定、SV/コンサルテーションなどを行っています。

相談の流れや詳細は、HP をご参照ください。

<https://www.seigakuin.jp/faculty/shinrifukushi/soudan/>